

## 平成29年度交通事業の概要

本市交通事業は、市民に身近な公共交通機関として重要な役割を果たしてきておりますが、交通手段の多様化や少子高齢化の進行、民間バス事業者との競合など、交通事業を取り巻く環境は、依然として厳しい状況が続いております。

このような中、事業運営に当たりましては、交通事業の基本である安全輸送の確保と親切・丁寧な乗客サービスの提供を図るとともに、第二次経営健全化計画に基づき、増収対策や事業の効率化による経費削減などに積極的に取り組んでまいりました。

その主要施策等は、次のとおりです。

軌道事業につきましては、鹿児島駅前停留場の整備に向けた基本設計を行ったほか、郡元電停交差点内の軌道施設の改良を年次計画に基づき実施しました。

また、通勤定期乗車券等について全線で利用できる制度を導入し、定期料金の一部を改定したほか、電車音声合成放送装置を更新するとともに、インバウンドに対応した車内案内放送の多言語化や、電停案内表示のリニューアルを実施しました。

自動車運送事業につきましては、低公害低床型バス（大型19両（繰越分10両を含む）、中型1両）を購入するとともに、リフト付き貸切観光バス（1両）を発注したほか、全車両へのドライブレコーダーの年次的整備を完了しました。また、北営業所及び桜島営業所管内の路線に係る管理の受委託を引き続き行いました。

自動車運送事業の抜本的見直しにつきましては、交通事業経営審議会に諮問し、「市営バスの廃止は市民生活に与える影響が大きいことから、将来的に軌道事業と合わせた交通事業全体の収支均衡が図られ、事業継続が可能となるよう経営改善を図るべきであり、民間事業者へ一部路線を移譲して、人員・車両も含め事業規模を縮小する抜本的な見直しに取り組むべき」との答申がなされました。

軌道事業及び自動車運送事業共通の取組につきましては、65歳以上の方を対象に、市電では全線、市バスでは必要な区間で利用できるシニア定期乗車券を創設しました。

また、交通局ふれあい推進事業では、昨年度に引き続き、資料展示室や電車整備工場など一連の施設等を職員の解説付きで巡る施設見学会を開催したほか、小学生を対象に市電・市バスのお仕事体験や試運転線を活用した市電運転体験を行うとともに、恒例の「市電・市バスゆーゆーフェスタ」を交通局舎・電車施設及び隣接する上荒田の杜公園において開催しました。

さらに、新たな局オリジナルグッズとして「電車型目覚まし時計」を製作するとともに、多数の来場者が訪れるイベント会場等において、オリジナルグッズの出張販売を行うなど交通事業のPR及び増収に努めました。

このほか、広告収入拡大のため、市電の7000形車体広告を新たな媒体として提供し、また、9000形車体広告料について長期継続契約した場合における取次人割引率の拡大キャンペーンを実施したほか、広告取次人1社と市バスの車外広告掲出枠の買取り契約を締結しました。

平成28年度に売却した交通局跡地につきましては、共同事業体からの相談を受け、改めて土壌を調査したところ、汚染等の状況が確認されたことから、掘削・搬出し、良質土で埋め戻す工事を行うとともに、搬出した土壌を県外の処理施設へ輸送し、リサイクル処理等を行う土壌対策事業を実施しました。